

松山八ヶ寺には文化財がいっぱい

松山八ヶ寺には国指定をはじめ、さまざまな見どころがあります。その一部をご覧ください。

石手寺二王門

河野通継が1318年に建立したと伝えられる。均整の取れたその姿は鎌倉時代の楼門の中でも全国屈指の傑作と評価が高い。国宝。

石手寺五輪塔

花崗岩製の石塔で、鎌倉時代の作。総高273センチの巨大なものでこの時代の代表的優品。国重文。

太山寺納札

写真右上は室町時代の位牌で、右下は江戸時代の納札を挟む札挟み。遍路の遺品の中でも歴史的に古く数少ない貴重な資料。市指定。

太山寺納本着色弘法大師像

右手に金剛杵を逆手でとり、左手に数珠をとった通例の像容であるが、鎌倉中期以前の弘法大師像は非常に珍しい。県指定。

浄土寺木造空也上人立像

空也は平安時代の僧で浄土教の先達。鎌倉時代の作で、口から南無阿弥陀仏の六字が仏となって現れる。国重文。

太山寺木造十一面観音立像

国宝本堂に安置された7軀の立像はいずれも平安中期の作。温和な肉づきと穏やかな彫法はこの時代の特徴をよく表す。国重文。

お問い合わせは、(教)文化財課 ☎948-6603・☎931-6248へ

四国霊場開創1200年記念特集 松山八ヶ寺を巡ってプチ遍路

お遍路の名で親しまれる四国遍路は、今年で開創1200年を迎えました。その昔、荏原に住んでいた衛門三郎が、自らの強欲非道な行いを悔い、弘法大師の徳を追ったことからお遍路が始まったという伝説も残っており、本市にとっても記念すべき年です。四国遍路発祥伝説の札所・石手寺など、四国の市町村で最多を誇る八ヶ寺やそれにまつわる伝承などを紹介します。街、人、自然、さまざまな松山の顔を、松山八ヶ寺巡りで味わってみませんか。

健康と交通安全を祈って踏拝する浄瑠璃寺の仏足石

衛門三郎 前非を悔いて遍路開祖に

昔、荏原の強欲非道な豪傑、衛門三郎の屋敷に弘法大師が鉄鉢を持ってお布施を乞いに来ました。三郎はこれを拒み、鉄鉢をたたき割ったところ、八つに砕けて飛び散ってしまいました。その翌日から三郎の八人の子どもたちが次々に病死していきま。三郎は自分の罪深さを知り、前非を詫言のため、弘法大師の徳を追って何年も旅に出て、亡くなりました。これが遍路の始まりだともいわれています。

三郎が息を引き取る前、突然弘法大師が現われて、罪を許し、玉の石を握らせました。その後、伊予の豪族、河野家にこの玉の石を握った男の子が生まれました。そこで河野家では、お寺を建ててこの石を祭りしました。この寺は、石を手にして生まれ、寺と名付けられたといわれています。

三郎は生前、亡くなった子どもたちのために、八つの墓を作りましたが、それを哀れんだ弘法大師が、一夜のうちに、それぞれの墓の上に土を運んで、塚を造ったといわれています。

松山昔話

大師が杖突き湧いた杖ノ淵

弘法大師がこの地を訪れ、飲み水を求めた際、日照りが続いていたにも関わらず、水が入ったおけを惜しげもなく差し出した老婆がいました。弘法大師は心を打たれ、杖を大地に突き立てると水が湧き出して泉になったといわれています。現在、市民の憩いの場となっている杖ノ淵は環境省の名水百選に選ばれています。

弘法大師の綱かけ石

久谷町の道路沿いにある、綱かけ石は、高さ2メートル、周囲6メートルの巨石です。弘法大師が、遍路道にあつた2つの石をもつこのようなもので運んでいたときに、担いでいた棒が折れて片方の石はこの地に残り、一方は下の三坂川に転がったといわれ、今も石の表面には、運んだ時についた綱のあとがはつきりと残っています。

大師の戒め伝えるねじれ竹

昔、太山寺へ巡拝に来た男女と遍路僧が、宿に泊まりました。僧は二人が青竹を金剛杖代わりにし粗末に扱っているのを見て、大師の化身だから大切に扱うよう教えました。二人が杖を取りに行くと思わぬことに、杖は縄のようにねじれていました。二人は不義の仲だったのです。以来、四国遍路には、青竹の杖は使わなくなったそうです。

地域に根付くおせっかい 坂本ほんぼこ村

旧遍路宿「坂本屋」を拠点に文化やお接待の心を学ぶメニューを取り入れた体験学習。お遍路さんは子どもからのお接待に心を和ませ、子どもたちはお接待の心でおもてなしを実践し、成長していく体験となっています。

お問い合わせは、(割)地域学習振興課 ☎948 6813・☎934 1745へ

大学生が遍路マップ作製

松山大学 Muse のメンバーが毎年1回お遍路マップを作製しています。松山おもてなしコンベニ(市内遍路道沿いのサークルK8店舗)に設置しているほか、松山大学 <http://www.matsuyama-u.ac.jp/info/henro/henro.htm> からダウンロードできますので、活用ください。

松山は「ガイドと歩く」 遍路体験

専属ガイドが案内するまち歩きツアー。中でも石手寺を巡る「歩きお遍路体験」が人気です。詳細は「松山は」事務局 ☎945 6445 (10:17時)・HP http://matsuyamahai.ku.jp/private/petit_henro.php。

お問い合わせは、観光・国際交流課 ☎948 6558・☎943 9001へ

<p>第46番札所 浄瑠璃寺 浄瑠璃町 ☎963-0279</p> <p>和銅元(708)年に行基が薬師如来を刻み、本尊として祭ったのが始まり。一願弁天は知恵と芸術の守護仏としてあがめられている。</p>	<p>第47番札所 八坂寺 浄瑠璃町 ☎963-0271</p> <p>大宝元(701)年、越智玉興が文武天皇の勅願によって建てた古寺。本尊の阿弥陀如来坐像は源信の作といわれている。</p>	<p>第48番札所 西林寺 高井町 ☎975-0319</p> <p>本尊の十一面観音は弘法大師、毘沙門天と不動明王は行基の作といわれる。弘法大師が杖をついて湧き出た水・杖ノ淵は今も枯れることがない。</p>	<p>第49番札所 浄土寺 鷹子町 ☎975-1730</p> <p>天平勝宝年間、孝謙天皇の勅願で恵明上人が開いたと伝わる。本尊の釈迦如来像は行基の作、上人立像は空也上人が刻んだもの。</p>
<p>第50番札所 繁多寺 畑寺町 ☎975-0910</p> <p>天平勝宝年間に開かれた。本尊は行基作の薬師如来。將軍家綱の持仏であった歓喜天は商売繁盛の仏として厚い信仰を集めている。</p>	<p>第51番札所 石手寺 石手二丁目 ☎977-0870</p> <p>石手寺は真言宗豊山派の古寺。寺伝によれば聖武天皇の神亀5(728)年に勅宣によって大領・越智玉純が伽藍を創建したという。</p>	<p>第52番札所 太山寺 太山寺町 ☎978-0329</p> <p>天平11(739)年、聖武天皇の勅願によって行基が十一面観音像と四天王像を安置したと伝えられている。</p>	<p>第53番札所 円明寺 和氣町一丁目 ☎978-1129</p> <p>天平年間、聖武天皇の勅願によって行基が開いた古寺。寛永10(1633)年、須賀重久が荒廃していた堂宇を再建した。</p>